

研究テーマ： 英語表現力を向上させるための指導の工夫

所属 高知県立須崎高等学校

氏名 亀井久美子

R G S H 5

1 研究の背景

対象クラスは須崎高校 3 年 6 H、男子 9 名、女子 12 名（ただし、9 月から 1 名が留学）の少人数ですが、一応進学クラスです。そのうち 10 名が英検準 2 級、1 名が 2 級を取得しており、英語については最低限の基礎学力が身に付いているといえるでしょう。授業にはほとんどの生徒が集中して取り組んでいます。授業のはじめに聞き取り練習をかねて、よく音楽を聴かせるのですが、それがとても好評です。しかし、読解力や文法力のあるわりには表現力が乏しく、授業のはじめのウォーミングアップとして行う 1 分間英会話では簡単な事柄でもなかなか言えていないように感じます。そのようなわけで以下のようなリサーチクエストンに向けて取り組みを始めました。

2 リサーチクエストン

学習した重要表現を用いて、3 つ以上の例文が書け、かつ、その表現も含めて 5 つ以上のまとまった文章が書けるようになる。

3 予備調査

予備調査 1 授業観察の結果

期末試験直前の授業であったので、試験範囲の中から重要表現を選び、例文を書かせてみたりしたが、思ったより時間がかかるし、自由英作文にもおもしろみがなかった。ウォーミングアップの英単語しりとり（動詞編）では、ほとんどの生徒が動詞の定義を理解しており、綴りも正しいことから基礎学力の定着が証明されている。ただ、思いつく量の少なさからも表現力の乏しさがわかった。（指導案は別紙）

予備調査 2 英語力を示すデータ

1 学期に実施された高知県進学協議会の学習支援テストの結果、英語のクラス平均は 50.5 であった。須崎高校の平均 28.4 や県の平均 32.1 を遙かに上回っている。

予備調査 3 アンケート、授業評価の結果

上記の結果にもかかわらず英語に関する苦手意識が高く、大変謙虚な生徒たちである。予習、復習内容については、予想通り、単語調べ、和訳、音読などが多く、表現力を向上させる勉強方法を取り入れていない。また、ALT に話しかけられたら、喜びよりも緊張や不安感が勝っている。生徒たちが特にのびたい英語の分野は、読解力や会話力で受験勉強を意識している反面、英会話に対するあこがれも強いようである。表現力をつける勉強法については、語彙力をつけたり、文法をマスターすることが重要だと考えている。（ということは受験勉強が有効？）

4 仮説の設定

(1) 仮説

仮説 1 会話に役立つ重要表現をある程度暗記し、その表現を使って、身近な出来事を表現する練習を積み重ね、会話を発展させることができるだろう。

仮説 2 毎日の授業の最初に自由英会話を組み込み、英語で話すことに慣れさせれば、表現力がつくだろう。

仮説 3 毎日英語で日記をつければ、身近な内容を表現することができるだろう。

(2) 実践の方法

仮説 2 について、授業の最初に 1 分間の自由英会話（実際には全部終わるまでに 5 分かかる、別紙参照）を、週一回程度取り入れているが、文に条件を付けることが多いせいか、まだまだ自由に会話を楽しめていない。

5 計画の実践

受け持っている教科が「英語理解」であり、かつ進学クラスであるので、あまり授業内容を離れて課題を出し、生徒に負担になってはいけないと思い、会話に限らず役立ちそうな重要表現をすべて教科書の習っているレッスンから抜き出し、授業の復習をかね、定着を図ることに重点を置いた。

だいたい週一回のペースで、教科書 2 ページ分の中から、重要表現を 5 つ抜き出し、それぞれについて例文を 1 文（最初のうちは辞書の例文を写すことも認めた。）その中でも特に重要な表現を入れて、5 文以上の自由英作文を課した。

6 実践の結果と検証

2 学期間に、合計 10 のシートを用いて、英作文を書かせた。毎回 5 つの重要表現それぞれにつき 1 文の例文を書かせるようにしたが、その正答率は以下の通りである。1 回目（57%）2 回目（82%）3 回目（83%）4 回目（84%）5 回目（82%）6 回目（77%）7 回目（84%）8 回目（81%）9 回目（85%）10 回目（73%）2 回目以降は安定して正答率が高かった。これはある程度英語の基礎ができているので呑み込みが早かったということもあるが、4 回目あたりまでは辞書の例文の転記を許可していたからでもある。なお、10 回目の正答率が下がっているのは、宿題にせず、授業中に時間を決めて（20 分）やり、仕上がってなくても提出させたからである。

また、5 つの重要表現のうち、最も重要だと思われる表現を 1 つ選んで、その表現も含めた英作文（5 文以上）を書いてもらった。平均英文数は以下の通りである。1 回目（1.3）2 回目（3.3）3 回目（4.0）4 回目（3.9）5 回目（3.0）6 回目（3.9）7 回目（4.4）8 回目（4.1）9 回目（4.9）10 回目（2.8）こちらも 2 回目以降安定した高得点であり、呑み込みの早さが伺える。数値だけ見ると、徐々に向上していったようには見えないかもしれない。しかし、初めのうちは、全然関連性のない英文を並べていたり、比較的英作しやすい会話文が多かったりしたのが、回を重ねるにつれて文章の流れがスムーズになり、話の内容もおもしろくなってきて、添削しながら楽しませてもらった。また、9 回目以降は重要表現を 2 つ、3 つ組み合わせた自由英作文を課したが、それをうまく組み合わせてストーリーを構成していた。量よりも質の上でかなり向上したと言える。

なお、10 回目が低いのは上記の通りである。

7 成果と今後の課題

成果については結果の検証のところでも少し触れたが、文章の内容が充実してきて、文法の間違いが多少あってもまとまった文が早く書けるようになってきている。（きちんとした客観的なデータがなくてすみません。）

しかし、文法的にはまだまだ不十分な文が多く見受けられる。これは、生徒一人一人の向上振りを把握したかったことと、2 学期は多忙を極め、課題を出すのがやっとでなかなか添削できなかったこともあって、今まで全く生徒に返却できなかったからではないかと思う。やはり、英作した直後に添削し、記憶にあるうちに間違いを正した方が効果的であると思う。

今後は（といっても後 3 週間しかないが、）文法的に（最小限ですが、）正しい文を書けるように指導していきたいと思っている。